

2025 年 5 月 14 日

各位

インフロニア・ホールディングス株式会社
代表執行役社長 岐部 一誠

三井住友建設株式会社
代表取締役社長 柴田 敏雄

「総合インフラサービス企業」のさらなる進化へ向けた
インフロニア・ホールディングス株式会社と三井住友建設株式会社との経営統合について

記

インフロニア・ホールディングス株式会社（以下、「インフロニア」といいます）と、三井住友建設株式会社（以下、「三井住友建設」といいます）は、建設と建設サービス（維持管理、運営）の両輪で成長する総合インフラサービス企業の創出を目的に、インフロニアによる三井住友建設の普通株式に対する公開買付け（以下、「本公開買付け」といいます）を通じた経営統合をすることを決定いたしましたので、お知らせいたします。

三井住友建設の取締役会は本日、本公開買付けが開始された場合には、賛同の意見を表明するとともに、株主様に対しても本公開買付けに応募してもらうよう推奨する旨の決議をしております。

I. 建設業界の環境認識について

インフロニアの中核企業のひとつである前田建設工業と、三井住友建設はともに国内大手の総合建設業であり、以下の建設業界の市場環境についても、おおむね同様の認識を持っております。

建設業界では少子高齢化による担い手不足の深刻化や、いわゆる「建設業界の 2024 年問題」と呼ばれる時間外労働への上限規制の適用により、人的なリソース不足の課題はすでに顕在化しています。一方で、国内においては高度経済成長期に全国に張り巡らされた膨大な数の社会インフラの多くが、整備から 50 年を越え、老朽化が一斉に進んでおります。

短中期的には防災・減災・国土強靱化、カーボンニュートラルへの対応といった観点から、国内の公共投資額は底堅く推移し、さらに国内インフラの維持・更新の事業は拡大傾向にあります。ただ、長期的には人口減少による税収減、高齢化の進展による社会保険費の増大により、財政が悪化することで特に新規の公共工事のための投資は縮小が見込まれています。今後競争が激化することが予測される中で、競争の源泉であるエンジニアリング力（設計・計画から施工管理まで、技術的な知識とスキルを活かして効率的かつ安全にプロジェクトを進める能力）の強化が求められています。

海外については特に新興国（東南アジア、南アジア、アフリカ等）で進む急速な経済成長により、旺盛なインフラ需要を見込んでいます。

こうした激しい産業構造の変化に対応していくため、建設業各社としては、競争力を高めることが急務となっており、企業規模やエンジニアリング力、稼ぐ力といった経営要素を抜本的に見直す等、大きな変化が必要だと考えております。

II. 本経営統合を通じ目指す姿

インフロニアと三井住友建設は、本経営統合を通じて資本関係を構築することにより、両社がこれまで築いてきた成長市場への事業接点、事業基盤、及び顧客接点を最大限活かすことで、激しい変化が予想される建設業界においても、両社の強みである官公庁、民間事業者、新興国でのインフラ案件の受注を着実に獲得することを目指します。

特に国内におけるインフラサービスは、防災・減災・国土強靱化の観点からも、豊かな国民生活の基盤をつくるという意味で社会を支える事業そのものであると認識しております。両社あわせての建設事業の年間売上高だけでも単純計算で 1 兆円以上の規模となることを見込まれ、トンネルや橋梁、河川改修、土地造成、上下水道施設、道路など、フルラインナップで川上から川下まで対応可能となり、インフラ運営事業も含めると業界で唯一無二の立ち位置の企業体となることを見込んでおります。

インフロニアは建築事業、土木事業、舗装事業、機械事業及びインフラ運営事業まで幅広く展開しています。外的要因に左右されずに持続的成長を実現するビジネスモデルの確立を目指し、「総合インフラサービス企業」をグループ全体戦略として設定しています。三井住友建設との経営統合により、グループ各社のエンジニアリング力の結集と、積極的なM&Aやグローバルなアライアンスによる事業領域の拡大によって競争力を早期に最大化し、高収益かつ安定的な収益基盤を確立・拡大していくことを目指しています。

三井住友建設は土木事業及び建築事業の2つのセグメントで事業展開をしており、特に土木事業における橋梁分野では業界屈指の設計・施工実績を有しており、新たな構造形式などによる工期短縮・省力化施工等の技術開発を推進し、高品質で耐久性に優れ、維持管理に配慮された橋梁を提供しています。建築事業においては超高層住宅で豊富な実績を築いているとともに、幅広いプレキャスト技術を保有しています。さらに、海外事業においては東南アジア、南アジアを中心に土木事業における ODA 事業やインフラ事業、建築事業における日系企業の工場施設建設などに強みを有しています。

今回の経営統合により、インフロニアの中核会社のひとつである前田建設工業と三井住友建設が建設部門では兄弟会社となり、得意分野を相互補完することでインフラ全ての分野で強みを持つことができ、インフロニアが推進する「総合インフラサービス企業」として、さらなる進化を遂げていくものと確信し

ています。これからも、我々インフロニアが挑む革新的な取り組みにご期待ください。

本公開買付けの詳細につきましては、別紙資料「インフロニア・ホールディングス株式会社（証券コード 5076）による三井住友建設株式会社（証券コード 1821）に対する公開買付けの開始予定に関するお知らせ」をご参照ください。

以上